

# インドネシア：政策金利を引き下げ5.75%に 予想外の利下げを決定、景気支援の緩和へ

インドネシア中央銀行（BI）は1月15日、2日間（14～15日）の金融政策決定会合を終え、政策金利を0.25%引き下げて5.75%にすることを決定しました。引き下げは2024年9月以来となります。BIは会合後の声明で、今回の利下げは経済成長を支えることを狙った上での決定である、と説明しました。BIの動向、市場の反応および今後の見通しについてご説明します。

## ➤ 予想外の利下げを決定、景気支援の緩和へ

### 金融政策について：

- BIは1月15日、2日間の金融政策決定会合を終え、政策金利である7日物リバースレポ金利をそれまでの6.00%から0.25%引き下げ、**5.75%にすることを決定**しました。政策金利の引き下げは2024年9月以来、4ヵ月ぶりとなります。大方の市場参加者は直近の通貨ルピア安などを背景に政策金利の据え置きを見込んでいたため、今回の発表は**市場の想定外**となりました。
- BIはまた、翌日物預金ファシリティー金利と貸出ファシリティー金利もそれぞれ0.25%引き下げ5.00%と6.50%とすることも決定しました。
- インドネシアでは通貨ルピアが米国の利下げ観測の後退などを背景に安値圏で推移していますが、今回の利下げ発表は**ルピアの安定よりも景気支援を優先**した形となりました。
- ペリー・ワルジヨ中銀総裁は会合後の記者会見で『今回の決定は2025、2026年の国内のインフレ率が低水準にとどまることが予想され、**経済成長を支える必要**があるとの判断に基づく』と述べました。

※ 次回の金融政策決定会合は2025年2月に開催予定。

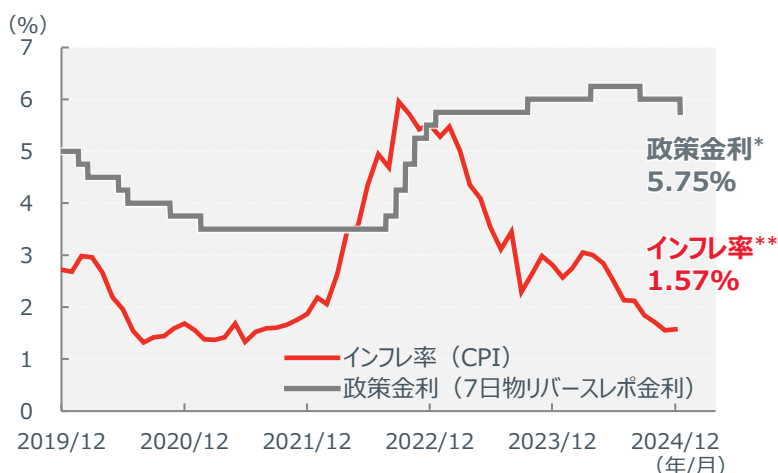
### 経済成長について：

- BIはインドネシア経済の先行きについては、2024年の経済成長率が4.7～5.5%の**予測レンジの中間値を若干下回る可能性を示唆**しました。また**2025年については**前回の4.8～5.6%から4.7～5.5%へ**下方修正**しました。

### インフレについて：

- BIはインフレ見通しについて、**今年**はBIの**目標レンジ内**（1.5%～3.5%）に**収まる**との自信を示しました。同国のインフレ率は緩やかに推移しており、直近12月は前年同月比1.57%と、BIの目標レンジの下限付近に留まっています。

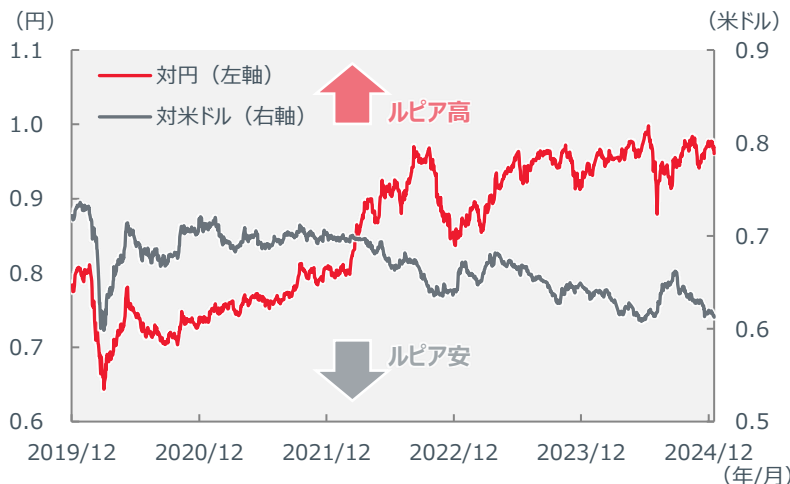
政策金利とインフレ率  
政策金利\*とインフレ率\*\*の推移  
(2019年12月31日～2025年1月15日)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
\* 7日物リバースレポ金利。  
\*\* 消費者物価指数（CPI）上昇率。前年同月比。2024年12月まで。

### 為替

インドネシアルピア（対円、対米ドル）の推移  
(2019年12月31日～2025年1月15日、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
※ 対円は100ルピア、対米ドルは10,000ルピア当たりの推移。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

250116 (04)

(1/2)

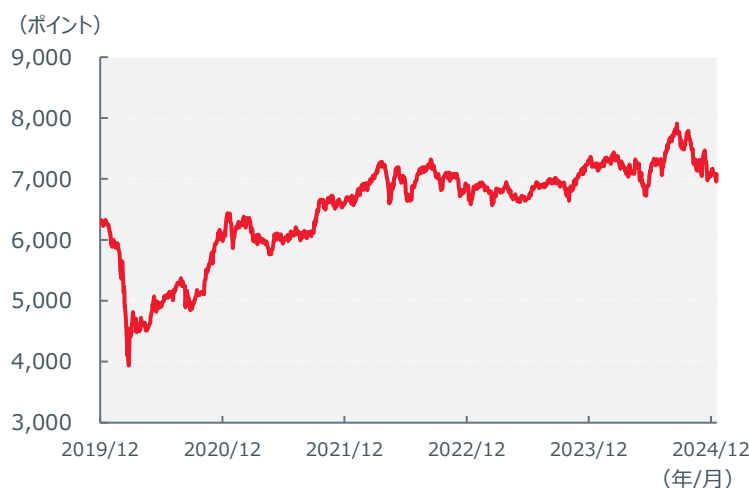
## ➤ 市場の反応と今後の見通し

- 市場では通貨ルピア安を背景に政策金利の据え置きが見込まれていたため、今回の利下げは市場の想定外となりました。発表当日の15日の株式市場は上昇（ジャカルタ総合指数は前日比+1.77%）、為替は対米ドル、対円ともに下落しました（前日比でそれぞれ-0.28%、-1.00%）。債券市場は長期国債の利回りは低下（価格は上昇）しました（10年国債利回りは前日比-1.0bps（-0.01%））。
- BIはこれまで金融政策について為替の安定性を重視してきましたが、今回は経済成長の懸念への配慮を優先し政策金利の引き下げに踏み切りました。直近の経済指標についてはインフレ率はBIの目標レンジ内に収まっているものの、一部で経済成長の減速がみられ注意が必要です。
- 一方、インドネシアの資本市場については、マクロ経済成長とインドネシア企業の競争力強化とあわせて、**規律ある財政運営への期待**などを背景に資金流入が促される、と私たちは考えています。

### 株式

#### ジャカルタ総合指数の推移

（2019年12月30日～2025年1月15日、日次）

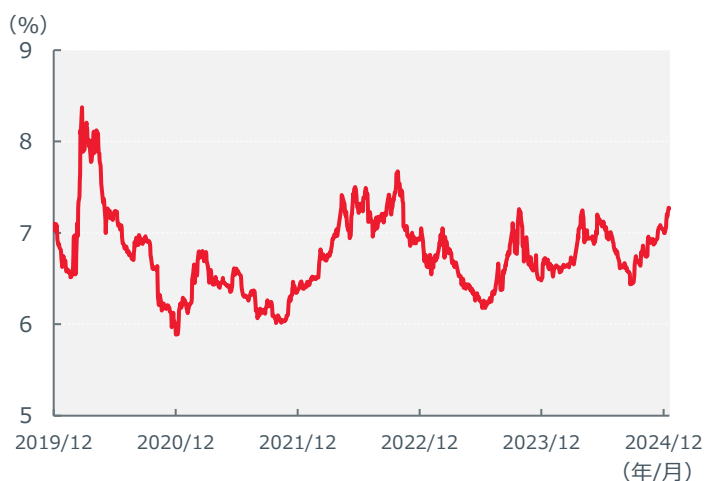


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

### 債券

#### インドネシア10年国債利回りの推移

（2019年12月31日～2025年1月15日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

#### <当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。